西東京市市民協働推進センター

平成30年度第5回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成30年9月18日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第3、4会議室
■出席委員：海老澤委員、柿本委員、熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、三好委員
＜以上7名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進課係長

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、7・8月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：相談記録の中で、8番は終活というテーマで相談がきたのか。

事務局：そうだ。他の登録団体で活動している方だが、どこに相談して良いかわからないので、ゆめこらぼに問い合わせがあった。

委　員：色々な登録団体があり紹介できることは、活動として大きいと感じた。

委員長：主催事業の協働のまちづくりワークショップに参加したが、女性の視点から減災、防災を絡めた講師の話が上手く面白かった。ワークショップでは地震など災害があった時、ご近所でパッと思いつく相談できる人、動いてくれそうな人の実名を書いてみるなど、今まで考えたことがなかったことを取り入れるものであった。

委　員：私も参加したが話の中で災害時、避難所運営協議会会長や自治会長、副会長が必ず中心になって動く理由はないという気づきがあった。そういう人達が防災にたけているとは限らず、長という立場で右往左往する場合があるので、色々な人達が動く方法もある等考える場となった。

委　員：いろいろな研修に参加しているが、どういう方法で選択しているのか。

事務局：職員の担当事業がおよそ決まっているので、自己研鑽もかね本人の希望を取り入れている。メールや郵便などで情報は多くあるので、予算とスケジュールを調整しながら参加を決定している。

委員長：「民間NPO支援センター」とあえて「民間」をつけているのはなぜか。

委　員：公的なところが直接やっている所もあるので「民間」をつけている。

2. 9月以降の事業について

事務局より、9月以降の実施事業について説明があった。

委　員：出前相談会とはなにか。

事務局：9月22日と9月30日にあるが、ゆめこらぼがイベント会場に出張し市民活動全般に関する相談を受け付ける場だ。

委　員：西東京市の北側から田無まで相談に来るのは難しいので、良い場だと思う。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長： 質問、意見が特になければ、前回の会議録は確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. センターの業務の執行に関する事項（重要事業の企画）について

事務局より、地域活動紹介ゆめサロン（企画案）について説明があった。

副委員長：概要で市民が興味を持つテーマとあるが IT プログラミング教育に市民は興味を持っているのか。

事務局：そうだ。シニアの多彩な趣味を活かせることや、小学生の親世代も IT プログラミング教育に関心があるのではないかと企画した。

委　員：親世代ではプログラミングが分からないとあきらめている部分はある。祖父母世代は使える人と使えない人の二極化だと思う。

委　員：親の立場としては子どもにやらせたいと思う。親子参加も想定されているのか。

事務局：そうだ。

委　員：この講座開催後に興味を持った方については、その後どういう活動に繋がるかなど、受皿はどうするのか。他の団体を紹介していくのか、既存の団体に繋がりをつくるのであれば仕掛けは必要かと思う。

事務局：現段階では既存の団体に受皿としての予定はない。月一度 IT 相談受けている中でも感じていることだが、興味のある方はいる。その方達を市民活動へ繋げることを考えている。

委　員：シニアプログラマになる方法の紹介と市民活動参加がどうつながるのか。また新たな分野の社会参加者とはどういう人を想定しているのか。

事務局：シニアプログラマになる方法を教えるのではない。西東京市近隣ではソフトを使いながらいろいろな取り組みがなされている。その活動を紹介していく。写真や絵手紙などを利用し絵本を作るなど、子どもが空想した物語を祖父母が趣味の絵を取り込むソフトを使い動画絵本を作るなどがある。三世代でひとつの作品を作ることができることなど伝えたい。

委員長：三世代をもっと前面に出すと分かりやすい。

委　員：2020 年度小学校プログラミング教育必修化とはなにか。

事務局：プログラマを育成するためのものではなく、プログラミング的思考を育むことを目的に小学校の 1 年生から始めることが決まった。ものづくりの発想や考え方、組み立てのプロセスを考えていく事で各教科での学びをより確実なものにしていくこと等だ。そこで、シニアの方達にも柔らかい考え方を伝えていき市民活動へつながることを期待している。

委　員：この企画に参加することのメリットをもっと伝えて欲しい。

委員長：シニア層を地域の活動につなげることに重点を置いているのか。

事務局：地域活動紹介ゆめサロンはもともと定年退職した方向けの企画だ。しかし、2020 年に向けて子どもプログラミング道場は無料で開催するなどいろいろな世代に情報を発信している。西東京市は近隣市より立ち遅れていると感じている。

委員長：市内の小学校の子ども放課後教室が広がっている。市教育委員会の予算が少ないのでパソコンを教えられる人など地域の人が少なく苦労している。シニア層の方が参加し小学生へパソコンが教えられる等、そういうところへつながれは良いと思う。

委　員：参加者が興味を持った場合、どういう形で発展していくかわからないが、ゆめこらぼは参加者の活動に広がりが出るような情報提供ができると良い。

副委員長：UD トークはそれほど性能が良くないので、どういう形で使うのか半端にならないようにして欲しい。
委　員：聴覚障害の方が参加する予定があり配慮したものか。
事務局：講師の希望だ。code for Nerima では毎回聴覚障害の方が参加しており実績がある。
委　員：講師の希望で色々なことを入れすぎずに主旨がずれないようにして欲しい。
事務局：しっかり詰めていく。

2.事業報告及び決算について

事務局より平成 31 年度西東京市市民協働推進センター事業計画（案）について説明があった。

委　員：5 年に一度の第三者評価で事業費予算が 10 万円増額となる説明だが、市から出るのか。
事務局：出ない。事業の中で予算の遣り繰りとなる。西東京市の予算の配分の仕方が委託事業だからといって 5 年目にその分増額される発想にはなっていない。従って、合計すると昨年度の事業費より 10 万円増になる。
委員長：他市はどうなっているか。
委　員：西東京市は委託の金額が他の地域と比べると厳しい。毎年金額が変わる地域もある。この中で第三者評価をするのか、委託側の市が評価するのかで変わってくるのではないか。自分の所で第三者評価をしなさいという形で委託の中に入れるのは少ない。第三者評価をしつつ予算がないのは疑問だ。
事務局：事業の中に第三者評価があると、自主評価に近いと思う。ただ、以前からこの形で行われてきた事は事実である。前例どおり次年度も同じようにするのではなく、疑問として意見する必要があると考えている。
委員長：第三者評価機関は外注するのか。
事務局：選定方法はわからないが、学識経験者など 4 名で構成し謝金が支払われる。
委　員：次回の受託に活かすのであれば、第三者評価の実施時期が 1 月、2 月、3 月では遅い。予算の時期に間に合うようにする方法もある。ただ、委託者側がやるのかゆめこらぼがやるのかで変わってくる。委託費が少ないことも含めて評価するのであれば予算の時期に間に合うようにしなくてはならない。
委　員：次の業務委託のプロポーザルの時期はいつごろか。
事務局：今までは夏に公募をかけ、プレゼンは秋ごろだと思う。
委　員：その前に評価を受け実績を出さなければプレゼンする根拠がなくなるのではないか。
事務局：今の発言は会議録に残り、運営委員会から疑問が出ていることを所管課に正式に伝えて良いか。
委員長：良い。
委　員：目標値に随時とあるが具体的な値を記入し数字の根拠をはっきりさせた方が良いのではないか。計画の値がはっきりしていることで前年度との比較、分析ができるし、事業報告も活きてくると思う。
事務局：随時の部分は数字を入れ、数字の根拠をはっきりさせる。
委員長：相談事業だが、記載されている専門的とはどの程度のことか。ワンストップでケアできるのか。

事務局：基本オールマイティに答えられるように準備はしているが、素人が説明してはいけない法律に関係することはネットワークを通じて専門家につなげるなどしている。
委　員：予算案を立てるときに0円とあるが数字を入れておく方がよいのではないか。
事務局：現時点では0円と記載しているが、消耗品等未記載のため0円ではない。

3. 自主企画委員会（新規事業）の進め方について

事務局より自主企画委員募集案内（案）他について説明があった。

委員長：2つの案の説明があったが、運営委員から出すことが可能か。土曜と平日と2本の企画をすり合わせて1本にするのか。始めから1本立てで行くか。
委　員：土曜と平日では、参加出来る方は違うと制約がある前提か。2本でやるか1本にするかで違うと思う。
委員長：個人的な感触だが、初年度なので1本でやった方がよいと思う。
委　員：土曜の午前中であるなら、平日に出られる人と被ってくるとは思う。
委員長：自主企画の講座ができるのが、事業成果だとは思うが、いろいろな人が集まる場を持つことがで来たことも事業成果だと思う。どちらの案にするか。
委　員：2-1案がよい。記入欄があり書くことで自分ごとになる。
委　員：2-1案の方がイメージしやすい。
委員長：では2-1案でよいか。
委　員：入口は緩やかで、とりあえず12月8日に参加してもらうことだ。
委員長：案内を出すスケジュールはどうなるか。
事務局：10月早々には発信したい。12月8日の時間がはっきりしたら、文言の構成など運営委員へはメールでのやり取りをお願いしたい。今月中にご意見を頂き最終文書は運営委員へメールで送ることとする。
委員長：12月8日は確定なので、協力をお願いしたい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：10月16日（火）19時～21時
会場：イングビル3階　第3、4会議室